Copyright © 傳鴻資訊 www.dhcdb.com.tw 版權所有



# 植民地增兵大反對

## その財政的轉嫁と彼等の軍國的意慾

### —同胞は斷然と反對せよ—

讀者諸君は次の樣な電報を讀んだ事を覺えて居るだらうと思ふ。

【電通東京八日發】軍制改革に際し多年の懸案たる朝鮮臺灣の增兵問題を如何に解決するかにつき陸軍當局では極祕裡に研究中であるが財政困難の今日として陸軍としては增兵に伴ふ經費を兩總督府で賄ふならば適宜增兵を爲したいとする意向の如く近く兩總督府當局と內交渉を爲すものと見られてゐる而してこの場合如何なる程度で實施するかは總督府側の財政上の意向に依る譯であるが大體次の程度が豫想される

**朝鮮軍** 內地より一箇師團若くは騎兵一箇師團を移駐し主力を南鮮方面に置くこの場合朝鮮總督府は少くとも經常費の差額を負擔すること(朝鮮部隊の經常費は內地部隊よりも多く一箇師團では約二百萬圓の差がある

**臺灣軍** 歩兵一箇聯隊と砲兵一箇大隊位の程度で增兵する、この場合臺灣總督府が全部の經費を負擔すること

輿論は軍備の縮少を呼號して居るが、軍部の軍國主義連中は却つて、軍備の大擴張を陰に陽に策動して居る。中央政府は擧げて財政難に苦しみ、官吏の減俸に依つて、辛じてその一部分の不足を補つて居る苦境にある。減俸のみでは、增大して行く赤字は塡まらぬ事は明瞭であるので、輿論は軍事費の節約を要求したが、陸海軍は彼等の軍國主義的好戰慾から、國民の苦痛を素知らぬ風をして居る。而して本國に於いて、軍事費が喧しくなつて來たので、その逃げ途を植民地に求めたのである。卽ち朝鮮に一個師團、臺灣に歩兵一聯隊砲兵一大隊の植民地增兵を企畫して居る。此に要する軍費を植民地住民に負擔させ、それ丈本國豫算面より削除されて、日本國民の財政難から軍部に對する怨言を消さうとするのである。軍國主義者から觀れば、植民地住民はロボットで、腹の餓える事を知らぬ人種だと考へて居るらしい。玆に軍國主義者と我等の根本的對立がある譯である。

臺灣に增兵する計畫は霧社事件當時から表面化されて居た。金谷參謀總長の來臺は、全く增兵計畫の基本觀察であつた事は周知の事實である。亦るべき世界大戰爭は、朝鮮は陸戰の根據地となり臺灣は空、海戰の防攻根據地となる事は、爭へない事實である。軍部の帝國主義者は此の點を夙に考へて居たし、如何にして世界の視聽を惹かないで增兵すべきかを考究して居た。斯くて臺灣は霧社事件は彼等に良い口實を與へたかの如き感がある、帝國主義者の外は決してさうは考へて居なかつたのである。

世界戰爭準備と本國財政負擔の植民地への轉嫁は、今回の植民地增兵である。我等同胞が此の負擔に堪へない事は明瞭な事實である。それ故に我が同胞は、其の目的の不當と、財政的負擔の過重に對して、今回の增兵計畫に絕對に反對するものである。

# 廣東 南京 兩政府の對立

## 浙江財閥勝つか 廣東財閥勝つか

中國に於ける反蔣運動は此迄數回行はれたが孰れも失敗した。第一回は共產系國民軍の反蔣運動であり、第二回は李宗仁等の廣西派の反蔣運動であり、第三回は西北軍馮玉祥等の反蔣運動であり第四回は、山西軍閥錫山等の反蔣運動であつた。今回廣東派の反蔣運動は實にその第六回の反蔣である。第一回の共產系の反對運動は、國民黨の資本主義革命か、共產黨の共產主義革命か、と云ふ樣に思想的に根本的に對立する運動である。第一回の反蔣運動(此の場合は同時に反國民黨運動)は失敗に終つたが、三年後の今日では、各地に相當の地盤を持ち、隨處に蘇維埃政府を樹立して對抗して居て、國民政府は此に對して如何ともする事が出來ない、第二回以下第四回迄の反蔣運動は國民黨內に於ける爭覇運動に止つて、鄕黨的觀念と朋黨的對立の外に何等見るべき社會的意義がない。只特に注意を要すべき點はその孰れの時にも廣東財閥は常に浙江財閥に追隨して居た。廣東、浙江兩財閥は、廣西、西北、山西の小ブルジョア的軍閥の反抗に對しては共同の利害關係を持つて、居たので、完全に共同作戰をして來た。所が此の共同の敵を失つた後の兩者の關係は、事每に利害關係の衝突と見るに至り正面的衝突は要するに時の問題として殘されて居るに過ぎなかつた。果して國民會議を中心にして廣東派の元老胡漢民の監禁する事によつて、火蓋は切られたのである。而して今回の反蔣運動の特殊性は、兩財閥の爭覇戰である。筆者が二年前に上海に旅行した時に、消息通から聽いた話では、蔣介石の執權以來、二年間にして、上海に於ける廣東財閥と浙江財閥の地位が顚倒されたとしふ事を聽いた事がある。その時から、廣東派と浙江財閥の爭覇戰は早晩起るものと豫想されて居たのである。果して國民會議を中心に爆發したのであるか、吾人が特に指摘して置きたい事は、中國に於ける中國人自身の資本主義的發達は不完全ながら金融資本家の勢力が相當に高度に發展した事である、而して浙江派は金融資本家多く、廣東派には、工業資本家が多い。此を國際的に見れば、帝國主義列國は、孰れも金融資本家が覇權を擔つて居るから、浙江派によく多き連接關係を持ち、應援する必然性を持つて居る。玆に浙江派の國際的優越地位がある。浙江派は今日に於いては、割に優秀なる味方軍隊を擁するとと共に、軍資金が豐富であり、指揮部に對立關係が少い事は、廣東派に對して、かなり優越な地歩を占めて居る。浙江派の地位の優越は反面に廣東派の弱點となる事は言ふ迄もない事である。

併乍ら今回の反蔣運動に對しても、吾人の有し得る興味は、均しく資本家陣營內に於いて、誰が政權を握るかといふ點に止まり、日本に於ける民政對政友の選擧戰以上の興味は起し得ない。中國の將來に對して、吾人の關心すべき事は、共產黨勝つか、國民黨勝つかといふ事であり、共產主義革命成功するか、資本主義革命成功するかといふ對立關係である。而して此は必然に次期の世界戰爭と連關する事を忘れてはならない。

# 階級鬪爭は非道德的行爲か (下)

## —特に宗教家タチに與ふ—

林洲鰲

スバルゴーは、更にその第二原因に就いて次の如く意見を發表してゐる。

「階級意識に對する第二の道德的反駁は斯うである。一階級の利害に訴ふる如きは、より博く人道的に、全人類の利害に訴ふるの思想に反するものであると。成程さう觀る時には、階級意識は其の倫理的基準に於て比較的低級たるを免れない、併しながら現在の制度が根本的に改造せられて、經濟上の敵對が一掃せられ、掠奪者と被掠奪者、有產者と無產者の差別が撤せられざる以上は、所謂全人類の完き和合などといふことは到底美しい夢である。それは現實の社會とは全く懸け離れた、到底實行し得らるべき倫理ではない。

現在の社會組織の下に在つて、實行し得べき利害の結合中最も大なるものは、各國の勞働者が其の人種や地理上の相差を度外し、唯勞働者といふ事に基いて團結を成すことである。言ひ換へれば勞働階級の共通意識は現在の經濟組織の下に於て可能なる最も廣き誠實に外ならない。故に今日のところでは、階級意識は最も有效なる倫理上の力である。のみならず、階級意識に訴ふるの目的は、結局階級制度撤廢のために必要なる勢力を養ひ、階級支配をば不可能ならしむることに依つて、世界人類の單一意識を可能ならしめんとするにある。斯く觀察する時は、階級意識はより大なる社會意識に進むの門に外ならないことが解る。」由是觀之、無產階級から自覺して挑戰的態度に立つた階級鬪爭は、最後に階級社會の否定となるものである。そこには搾取といふ事實がなくなるからやがて階級鬪爭といふ自體も否定されるのである。常に階級として武裝することによつて自己階級の平和をまもることも、此處では必要でなくなる。

まことにルナチャルスキーも云つた樣に鬪爭の素地に於てはプロレタリア的なものとして停まるとしても、プロレタリアートは何等か階級的なものの自己的なものではなくて、何等かすべての者にとつて必要なものを擔つてゐるのである。從つて、現在に於て階級鬪爭は階級的であると共に、また全人類的意識を含むものであることを知れば、宗教家達にとつて階級鬪爭と云ふ事が、かくも恐れられる必要はない。むしろプロレタリアトの側に屬するところの階級鬪爭の意義が、ブルジョアジーに屬するそれの如く利己主義的であり、永く一階級的に限られたものであるに反して、全人類的、共存主義的である社會への歩みである事の意義にまで理解をすゝめて行けば宗教家の云ふ理想たる社會が階級鬪爭を通じて實現されるといふことも明瞭になつて來るのである。之を要するに階級鬪爭と倫理とは何等抵觸するものではないのである。

目醒めたる宗教家よ！及びすべての人道主義者よ！「今日の社會を導く爲には、先づ今日の社會を見ねばならぬ。今日の社會が、如實に看取されたならカビの出來た自分の精神的インテレッセの如きも如何に役立たぬものであるかが判らうし、同時に神の爲に人間を愛さうとした自分の不實も悔ゆることになるであらう。兎に角吾人は『今』を見ることに忠實であらねばならぬ。因はれたる觀念の世界から解放されて思ひのまゝに鮮血の滴つて居る人間そのものを抱かねばならぬ。そこにのみ新しき道があることを記憶せよ！

Copyright © 傳鴻資訊 www.dhcdb.com.tw 版權所有